

平成24年度第4回八街市地域公共交通協議会 会議要旨

- 日 時 : 平成25年3月18日(月) 午前10時～12時
- 会 場 : 八街市総合保健福祉センター4階 団体研修室
- 出席者 : 委員25名中出席者19名(代理出席者3名を含む。)、欠席6名
- 傍聴人 : 6名
- 委員の変更 : 千葉県佐倉警察署 交通課 伊東誠氏

3. 議題

(1)平成25年度事業計画(案)及び平成25年度歳入歳出予算(案)について

- ・事務局 : (資料説明)

(2)市内公共交通(路線バス)について

①千葉交通株式会社(八街～酒々井プレミアム・アウトレット線)

- ・事務局 : (資料説明)

②ちばフラワーバス株式会社(八街線、都賀線)

- ・事務局 : (資料説明)

- ・池田代理(ちばフラワーバス株) : 高速バスの収益をつぎ込んで今までは路線を維持してきたが、昨今の少子高齢化で年々利用者が減ってきている。当社自身の存続に係わる経営状態になってきている。利用者は、八街線は1便あたり平日で5.6人、日曜は3.1人で、都賀線もほぼ同じ。2路線の赤字が年間2,200万円で、補助金等を差し引いて、当社が毎年1,200万円くらいの赤字負担が必要で、限界にきている。しかし八街線については、当社の赤字負担額については両市で負担して頂くことを前提に、26年度について可能な限り存続に向けて取り組んでいく。

- ・小澤会長 : 何かご質問はありますか。

- ・佐藤委員 : みなさんに乗って頂けるように、どのような企業努力をしたのか？

- ・池田代理(ちばフラワーバス株) : 学校での定期券の販売や、ダイヤモンドバスの販売促進等を色々取り組んできたが、たとえば100円費用を使って95円の収入しか得られなかった場合などは施策の効果があるが、元々が50%に達しない収支率なので、施策の効果には限界がある。今後、厳しい少子高齢化の中で、小学校の登下校以外に需要の見込みがなく、改善策が限界にきている。

- ・佐藤委員 : 路線バスは、もっときめ細かく地域の中に入って運行する事はできないのか？

- ・池田代理(ちばフラワーバス株) : 大型バスが走れないところを中小型バスでドア to ドア的なルート設定で運行するのはコミュニティバスで、路線バスは速達性を重視している。路線バスで最寄駅まで20分だとすれば、コミュニティバスでは倍以上かかる。速達性を重視する通勤需要からすれば益々不便になる。メリット・デメリットがあり、非常に対応が難しい。

- ・稗田委員(ちばフラワーバス株) : 都賀線については、八街駅から坂江までと都賀から10分くらいが利用者のいる区間。それ以外は利用者空白区間で、ほとんど

ど利用者がいない。小学生に関しては、今、実住小の児童は、ふれあいバスと八街循環線に乗っており、都賀線にはほとんど乗っていない。

- ・佐藤委員：路線バスのルートから離れた地域に住んでいると、路線バスに乗りたくても乗れない状況である。
- ・中村委員：利用者が、八街駅、都賀駅間で中抜けの状況であれば、利用者のいる区間でピストン輸送はできないのか。成田発の千葉交通の一部も、途中の中沢までの便もある。他の路線と競合する区間でも競合路線の客を取ってこよという発想もあるのではないかと。そこが公共交通の生き延びて行く知恵だと思う。私は、八街の人間ですから、八街の立場で考えてしまいますけれども、八街にバスを走らせていただけるのですから、ぜひ知恵を出し合っていければいいと思います。是非宜しくお願いいたします。
- ・池田代理(ちばフラワーバス株)：八街線、都賀線以外にも、八街循環線も運行しているが、市役所や関東運輸局千葉運輸支局、千葉県と協議を重ねており、やれることはやってきているとご理解いただきたい。

(3)今年度の検討結果と次年度の検討予定について

- ・小澤会長：40 から 41 ページに関して、ご意見はありますでしょうか？
- ・轟委員：41 ページ(3)策定のスケジュールについて、オードソックスな検討項目と
思って聞いていました。1 つ追加提案があるのですが、路線バス廃止の一方
で酒々井プレミアム・アウトレット線ができますが、結局需要を増やす
ことが一番なので、「みなさんで乗りましょう」というキャンペーンを
実施してはどうか。この協議会もサポートしていくし、もちろん市民の皆
さんも、独自に実施していただく。一方、街では、何らかの魅力を創ら
なければ、利用されない。予算等の関係もあって難しいかと思いますが、
ご検討ください。
- ・事務局：どういうイベントやキャンペーンができるか、今後、内部で検討して
いきたい。
- ・小澤会長：八街市としてもアウトレットは非常に注目しております。アウト
レットに行くだけではなく、アウトレットに来た人を八街市内に誘客する
ことを市としても考えており、今後検討していく。貴重なご意見あり
がとうございます。
- ・中村委員：アウトレットに八街からバスが運行するのは非常に良いこと
だと思う。アウトレットには、八街以外のどの方面からバスが運行する
のでしょうか。
- ・事務局：先ず、成田空港からの直行便、東京駅からの高速バス、成田
駅、京成・JR酒々井駅からの路線バスがあると聞いています。総武本
線沿線では八街駅のみようです。
- ・佐藤委員：街にイベントがあれば、もっとバスを利用するという意見が
ありましたが、私たちは常に八街に若い人をもっと呼び寄せたいと
話し合っている。八街の花が「ひまわり」であれば、休耕田を活用
して、ひまわりで迷路をつくるといったイベントを行えば、人が集
まるのではないかと。
- ・小澤会長：ありがとうございます。市に対する提案としての理解でよろ
しいですか。
- ・佐藤委員：若い人達を呼び寄せたい、八街に来てほしい、という思
いでこれからも色々

やっっていこうと思います。

- ・小澤会長：酒々井のアウトレットモールには、インフォメーションセンターがあって、そこで八街市の情報を提供して頂くようお願いしています。そういったものを活用して、八街の情報を発信していきたいと思っています。
- ・越川委員：八街の若い人たちの中には、アウトレットで働きたいが、そこまで行く足がないと考えている人があるようなので、アウトレットに行くバスは、そこで働く方の通勤に利用できる時間帯での運行も考えて頂きたい。
- ・中村委員：アウトレットに行くバスの発駅は、総武本線沿線では八街駅だけなので、日向とか総武本線沿線の方達も八街経由でアウトレット行くことになるので、バスとJRの乗継が発生することになるが、接続時間等も検討された結果のダイヤなのか気になった。
- ・事務局：本日はご意見を伺って、事務局から千葉交通にお伝えします。
- ・中村委員：組み合わせれば活性化につながるし、ばらばらに運行するようだと何も残らなくなってしまう。JRと路線バスにふれあいバスも組み合わせれば、もっと良くなるのではないか。
- ・三澤委員：「榎戸駅北」というバス停があるが、このバス停からどのような方に乗って頂こうと考えているのかが疑問に思う。広域的にみて榎戸駅は、アウトレットに近いが、この路線だと八街駅経由となっており、JRとしては酒々井駅からの路線を案内するだろう。広域的にみて、どのような方の利用を見込むかの狙いを定めることも重要である。
- ・小澤会長：ありがとうございます。
- ・岩崎委員：「地域公共交通総合連携計画」から多少議論がずれていますが、木更津のアウトレットの事例を紹介します。アウトレットとJRが連携して、ポスターや電車の中吊り等にバスの宣伝をしています。ターゲットを絞って、宣伝をして、電車が袖ヶ浦駅に着くとアウトレット行きのバスが待っています。袖ヶ浦駅に多くの若い人達が降りる不思議な光景があります。酒々井のアウトレットに関して、八街市が戦略的に考えるのであれば、市民だけをターゲットとするのではなく、広域的にみて鉄道とバスの連携を検討することも良いのではないか。例えば総武本線の客を八街駅に降ろすことが良いのか、榎戸駅から直行便を出すことが良いのか、榎戸駅ならば、JR酒々井駅よりもアクセス時間が短くなり、アウトレットの最寄駅になり得るのか等も、今後の連携計画の検討の中で考えていくべきではないか。
- ・小澤会長：どうもありがとうございました。
- ・岩崎委員：今回の連携計画の検討の中で、新しい公共交通（デマンド交通）の検討が含まれていますが、関連情報を提供します。袖ヶ浦の乗合タクシーの運行が今年度で終了になります。私も長年携わってきて非常に残念な結果ではございます。これからデマンドをやろうという地域の皆さんには刺激的な記事ですが、実際デマンドをやってみると思ったほど便利ではないという状況で、どこの自治体でも利用は低迷しています。次年度の計画の中で試験運行を1週間程度予定され、モニタリング調査も計画されています。試験運行の時にご利用して頂いて、本当に便利なのか不便なのかコミュニティバスの方がいいのか、検証していけばよろしいかなと思います。袖ヶ浦

で困ったのは、少なくとも利用者はいらっしゃる、利用も伸びている中で終了するのは非常に辛い決断となりましたが、市の財政が最優先、9割以上が市の負担というのは厳しいということで終了となりました。これは地域の皆様方もご納得です。地域の人達は、地域で協議会の下部組織をつかって、利用促進に取り組んできていましたが苦渋の決断となりました。しかし、一旦始めると利用者が少なくともついてしまう、100人程度の利用者の足がなくなってしまうのは困るということで、現在、住民主体で乗合の交通事業の検討を行っています。

：都賀線も利用者が多少いるわけですから、同様の状況になる。先ほど八街循環線の話もありましたが、バス会社さんが維持して頂いている間に、どうにかしてみなさんが乗るという運動を絶対やらないと、第2、第3の都賀線、八街線になる事は見えてきている。今後の連携計画の検討の中で、しっかり検討して頂ければと思います。

・小澤会長：ありがとうございました。

・事務局：最初にご紹介できれば良かったのですが、協議会委員の千葉県佐倉警察署の交通課長様が、2月の人事異動で伊藤誠様に変更になりましたので、ご理解いただきたいと思います。

：次回の協議会は、5月中旬から下旬を考えております。国の補助金の採択の状況にもよりますが、先ほど申し上げたように補正予算が発生する可能性もございますので採択された場合は予算を計上する予定でおります。

：また4月に区長会議がございますので、その区長会議の場をお借りしまして路線バス、ふれあいバス等公共交通の現状について説明したいと考えています。併せまして、区長への意向調査も可能であれば実施したいと考えております。次年度は、計画の策定という大目標がございます。あわせて、ふれあいバスの再編なども視野に入れなければならないことから、皆様におかれましては会議の円滑な運営にご協力をお願いします。

・小澤会長：それでは、本日の議会はこれで終わります。